

環身体性〈一千年の接触を残す〉

地球、人間の心、体の関係を癒すための、領域横断的アプローチ



instagram



目的

ネイチャーケアと芸術を組み合わせ、参加者が自然との関わりを通じて個々人の豊かさを向上させる機会を提供する

■エコソマティック（環身体性）とはエコロジーと人間の心と体の繋がりを意識し、それらが不可分であることを示す学際的なアプローチである。プリミペディテスはこのプロジェクトを通じて、様々な立場に置かれた人の創造的で健全な養生を促進し、それに貢献したいと考えている。

内容

- ①野焼きワークショップを行う
- ②「歩く」ワークショップを開催する。
- ③小冊子「歩くための書_ケアを考える」を作る。

自然界に介入する大きな創造的アクション、野焼きはエコソマティックに関係していると考えている。人間と非人間の関係を論ずる上で、野焼きというアクションがリアリティを持った大きな装置として機能するのではないだろうか。野焼きは地域の子供たちをはじめとする参加者とも関わりながら行う。1000年後に残す土器をAMCのArtec Leoを使い3Dスキャンしデータの形にして未来に残したい。

場所

日本神奈川県西部山北町近郊と
フランス南西部の
オート＝ピレネー県ジェゾー

山北町

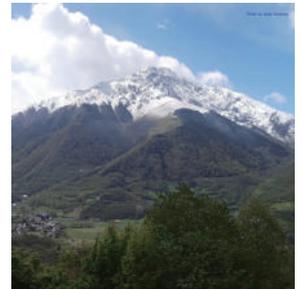
首都近郊にありながら、およそ90%は丹沢大山国定公園と県立自然公園などの山岳地帯にある自然豊かな街

ジェゾー

人口100名ほどの小さい村で、生態学的、動植物相に興味深い6つの自然地域で構成される自然遺産がある街



2022年 野焼きの様子 山北町



フランス ジェゾー

活動

アーティストコレクティブ: Primipedites プリミペディテスとは

井上潤美、諏訪部佐代子、吉野はるかの三人から成る。私たちは作品制作を通じて常に異なる視点から環境と人間の相互作用について探求してきた。2021年、新型コロナウイルス感染症の影響のなかで、「反転トポグラフィー」と名付けたリサーチプロジェクトを始めた。このプロジェクトは、地球の地磁気が反転した時代の地層であるチバニアンを観察できる養老渓谷と、赤道から見て養老渓谷のちょうど反対側に位置するジレーニウムを同日同時刻に訪れるというパフォーマンスとしての現地調査である。この実験ではオンライン通話を使用して記録し、後に小冊子をオーストラリアと日本にて制作販売、フランスのパリ国際大学都市レバノン館で活動報告展を行った。この展示では、参加者に環境の多様性と地理的つながりを示すことで、地球の広大さや時間的広がりの詩的側面を提示した。また、2023年からは日本、フランス、オーストラリアをつなぐ芸術実験を展開している。この実験はメンバー全員が異なる場所から同日同時刻に観葉植物を抱えながら「歩く」というものである。

場と場を繋ぎ、地球を俯瞰する視点



日本、養老渓谷(チバニアン地層)



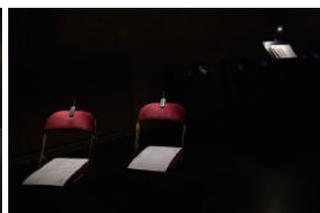
オーストラリア、ジレーニウム



(Primipedites)



*小冊子「反転トポグラフィー」2022年制作 左：日本版 右：オーストラリア版



企画展示「Les coordonnées : points organiques」2023年 フランス、パリ、国際大学都市レバノン館